

マティルデ マストランジェロ 「サピエンツァ」ローマ大学

『牡丹灯籠』の旅・西洋への旅

19世紀の終わりに、三遊亭円朝の『牡丹灯籠』が寄席で上演され、彼の演目の要となりました。そして、人気のあった噺家のパフォーマンスの響きは歌舞伎の世界にも伝わりました。『真景累が淵』という作品でも幽霊の意味に関して語る円朝と歌舞伎作者、演者との間には、芸術的に深く通じるものがあったと思われます。その知的な合意の結果のように考えられる芝居を見た人の中にラフカディオ・ハーンがいました。

ラフカディオ・ハーンは1850年に、アイルランド人の父とギリシア人の母の間にギリシアで生まれました。一時的にアメリカへ移民し、新聞記者として活動してから、1890年に日本に渡りました。大学で英文学を講じて、日本の国籍を取って、小泉八雲を名乗りました。八雲は日本語ができませんでしたが、日本文化に深い興味がありまして、様々な伝説を聞いて、英語で自分のスタイルで語り直しました。ラフカディオ・ハーンの1899年の「In Ghostly Japan」『霊の日本』という短編集に「A Passional Karma」と題する話があります。実はその話のきっかけは歌舞伎座で上演された『怪異談牡丹灯籠』でした。ハーンの「A Passional Karma」は『牡丹灯籠』の西洋への旅の始まりになりました。

『牡丹灯笼』

西洋への旅



Matilde Mastrangelo
Sapienza - Roma

0

『霊の日本』 In Ghostly Japan

『宿世の恋』 A Passional Karma



1

「近ごろの東京で、連日、大入り満員を
とっている当たり狂言に、名優菊五郎
一座の「牡丹灯籠」がある。（略）

私も先日この芝居を見てきたが、菊五郎
のおかげで、またひとつ新しい恐怖の
楽しみ方を知ることができた。」

（平川）



2

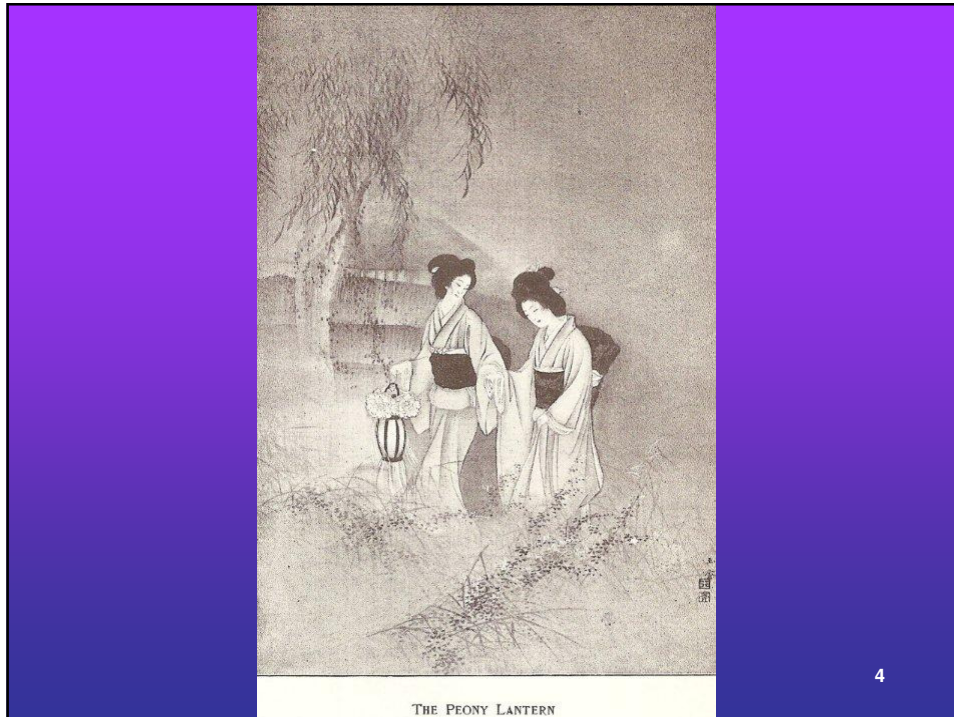
-the dramatization of a romance by the
novelist Enchō

-written in colloquial japanese

（ハーン）



3



4

Tsuyu was beautiful as her name, which
signifies “Morning Dew” (ハーン)

「その名のとり朝露のように儂げな美し
い娘だった」 (平川)



5

Perhaps this conversation may seem strange to the Western reader; but it is true to life. The whole of the scene is characteristically Japanese (ハー
ン)

「この会話は西洋の読者には奇妙に思えるかもしれないが、原作そのままである。この場面は始めから終わりまで日本的としか言い様がない」(平川)



6

「新三郎とお露と並んで坐って居る様は真の夫婦の様で、今は恥かしいのも何も打忘れてお互ひになれなれしく、(略)と膝に凭れ掛けて睦しく話しをするは、酔っぽど惚れて居る様だ。」(円朝)



7

Then clinging closely to him, with her lips at his neck,
she caressed him; and he returned her caresses.
(ハーン)

「女が新三郎の首に唇をあて、すがりつくと、新三
郎もそれにこたえて、露の体を搔き抱いた。」
(平川)



8

「骨と皮ばかりの痩せた女で、(略) 眞
青な顔で、裾がなくツて腰から上ばかり
で骨と皮ばかりの手で萩原様の首つ
たまへかじりつくと」(円朝)



9

For the face was the face of a woman long
dead,- and the fingers caressing were fingers
of naked bone, -and the body below the waist
there was not anything: it melted off into
thinnest trailing shadow. Where the eyes of
the lover deluded saw youth and grace and
beauty, there appeared to the eyes of the
watcher horror only, and the emptiness of
death

(ハーン)



10

「女の顔は屍人の顔—それも昨日、今日
ではなく、はや肉の腐りおちた顔だ—
新三郎の背をまさぐる指はと見れば、
ま白い骨がうごめいているばかり。女
の身体は、腰から下が火影のように中
空で掻き消えている。(略)女の若く
美しい顔も、伴蔵には、目も鼻も黒々
と落ち窪んだ、空ろな髑髏にしか見え
ない」(平川)



11

Here ends the story of the Ghosts in the
Romance of the Peony-Lantern (ハーン)

「牡丹灯笼という話の中の幽霊のエピソ
ードはこれで終わる」

(ハーンの私の翻訳)



12

O-tsuyu did quite right in choking him to
death

(ハーン)

「お露さんが彼を絞め殺したのはしごく
もつともだ」 (私の翻訳)



13

You did not suppose that ghost-story was true, did
you? (ハーン)

「あの怪談を本気になさってたんですか」 (平
川)

